

Rapport

2026
No.41



教員からの
メッセージ

図書館で対人援助のヒントの
“宝探し”をしてみませんか？

社会福祉学科 准教授 田中 尚樹

AI時代に新聞を読む意味

栄養学科 准教授 井澤 弘美

特集 教職員のおすすめ本

看護学科 助手	佐々木 麻結	栄養学科 准教授	伊藤 恵美子
理学療法学科 講師	橋本 淳一	健康科学総合教育部門 講師	松崎 良美
社会福祉学科 准教授	小山 宰	経営企画室 主幹	宮崎 宏得

学生の図書館活用方法

看護学科4年
高橋 博名

理学療法学科4年
高橋 瑚陽

健康科学研究科 博士後期課程
令和7年度修了生
吉田 優弥



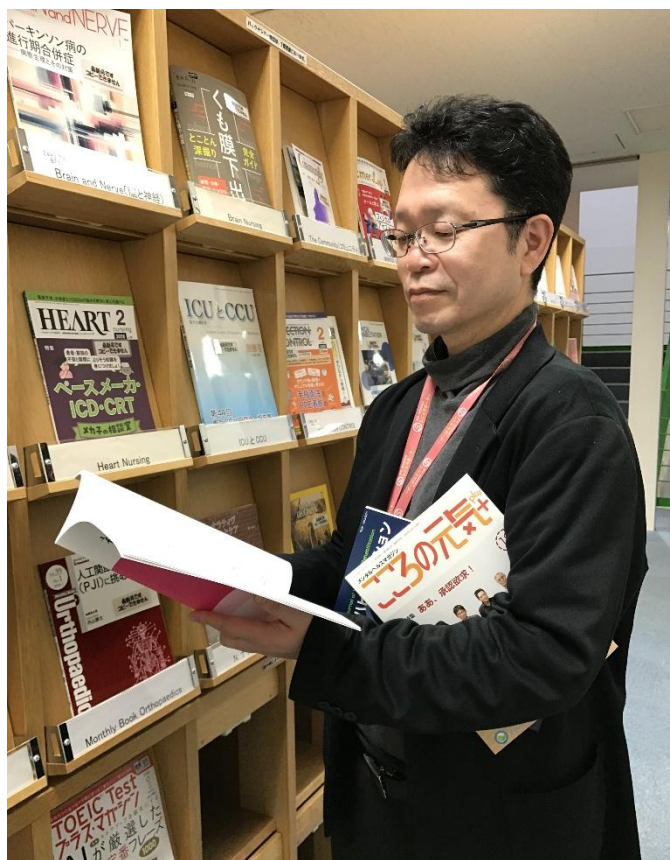
シリーズ 図書館を使いこなそう
第41回 蔵書検索リニューアル！

図書館で対人援助のヒントの

“宝探し”をしてみませんか？

社会福祉学科 准教授

田中 尚樹



大学に入ると、多くの新しい知識や考え方に出会う機会があります。その機会の場合として図書館があります。静かな空間なので、集中して本に向き合うことができ、調べ作業等が捗ります。ただ、私の場合、その静けさにより、呼吸音を立てることを遠慮してしまい、少し緊張して体が硬くなってしまいます。

さて、大学では、レポート課題や卒業研究等のために、様々な情報を扱うことになります。インターネットを使うと、キーワードを入力すれば、関連する資料が瞬時に手に入ります。非常に効率的なのですが、インターネット上の情報は真偽の確認が必要なものもあり、何より検索したワードの範囲内の情報に留まってしまうかもしれません。

一方で、図書館には分野ごとに書籍が並ぶ棚がたくさんあります。そこで、タイトルとにらめっこをして、気になる本を自分の手で取り、ページをめく

りながら、欲しい情報を探します。知識を見つけ出していきます。その過程で、当初は無関係だと思っていた一冊が、大切な気づきや知識を与えてくれることがあります。この偶然の出会いから新しい発想が生まれることもあり、そこに図書館で過ごす醍醐味があります。

特にヒューマンケアの分野を志す皆さんにとって、図書館には実践へのヒントが詰まった本が数多くあります。支援現場での失敗や葛藤、そこから専門性を高めていく専門職の実践が書かれた本からは、知識や技術だけでなく「人と関わること」の本質を学ぶことができます。そのため、私はよく学生に図書館を利用することを勧めています。また、古い書籍の中には、現在に通じる専門職としての理念や価値が眠っています。それらを知ることは、将来の自分を支える大切な礎になるはずです。

AI時代に新聞を読む意味



栄養学科 准教授

井澤 弘美

前回この図書館だよりに記事を書いたのは2017年でした。当時は「図書館で新聞を読みましょう」といった内容を書き、新聞が苦手な人は最後のテレビ欄や社会欄から読んでもいい、なぜなら下から読んでもシンブンシだからね、というオチで締めくくりました。現在も本学の図書館には五大全国紙に加え、地方紙も備えられており、社会情勢から地域の話まで幅広い情報に触れることができます。

新聞の大きな特徴は、政治、経済、社会、文化、地域の出来事が、編集というフィルターを通して一つの紙面に「パッケージ」としてまとめられている点にあります。自分の関心の有無にかかわらず、その日に起きた重要な出来事を一覧できるため、結果として偏りなく社会の動きを知ることができます。さらに、複数の新聞を読み比べることで、同じ出来事でも見出しの付け方や扱いの大きさ、論調の違いに気づくことができます。これは、図書館ならではの読み方です。

現在、多くの学生がネットニュースやSNSを通じて情報を得ていると思います。即時性が高く、スマ

ートフォン一つで手軽に読める点は大きな魅力で、私自身も隙間時間に利用しています。

ただ近年、似たような内容の記事が、こちらから探さなくても次々と表示されると感じたことはないでしょうか。これは、閲覧履歴や滞在時間、「いいね」や「共有」といった行動をAIが分析し、その人が好みそうな情報を優先的に表示しているためです。2017年当時は、今のようにAIが一人ひとりの行動特性を分析し、読む記事を自動的に選んでくれる時代ではなかったように思います。一見すると効率的ですが、その結果、関心のある話題ばかりに囲まれ、関心の外にある出来事に触れる機会が減っている可能性もあります。

図書館で新聞を広げると、その「パッケージ」の中から、自分では選ばなかった記事が自然と目に入ります。さらに別の新聞も手に取れば、同じニュースが違って見えることもあります。

AIではなく、自分の目(EYE)で「今日の世界」を読んでください。

Recommended Books

カフネ

ナースのチカラ

僕には鳥の言葉がわかる

傷はそこにある

料理と科学のおいしい出会い

味以外のおいしさの科学

いのちと心のごはん学

こんな夜更けにバナナかよ

いのち・開発・NGO

被抑圧者の教育学

「思い出」をつなぐネットワーク

日本語の作文技術



特集

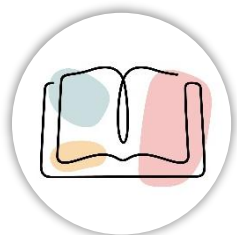
教職員のおすすめ本

楽しんで読める本、役に立つ本、真剣に問題に向き合う本、などなど…

6人の方々から、計12タイトルを紹介していただきました。

あなたはどの本に心惹かれますか？

教職員のおすすめ本

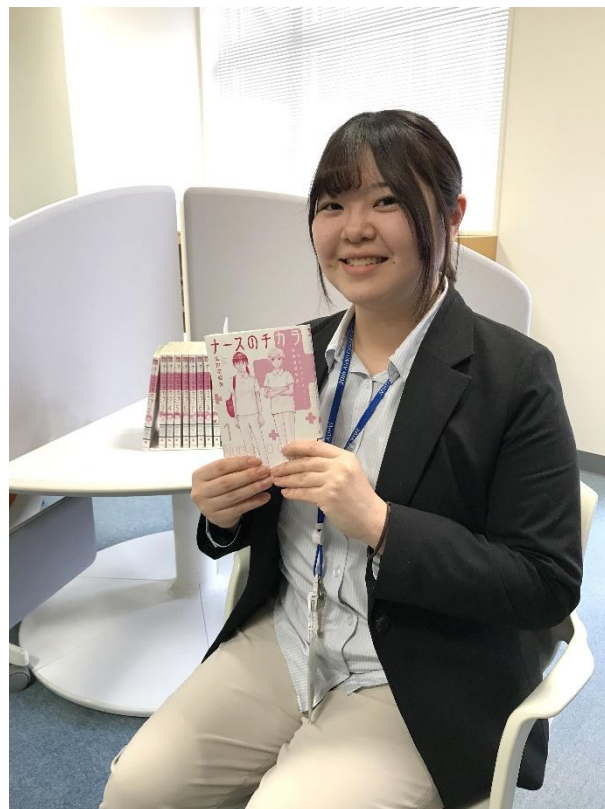


物語から考える、 人と向き合うということ

看護学科 助手

佐々木 麻結

SASAKI MAYU



スマホを眺める時間を減らすために、読書を趣味として最近始めました。その中で面白いと思った小説と、学生におすすめしたい漫画の紹介をしたいと思います。

阿部暁子さん著の小説「カフネ」と広田奈都美さん著の漫画「ナースのチカラ～私たちにできること 訪問看護物語～」の2作品です。

「カフネ」は、昨年の本屋大賞に選ばれた作品で、大切な人との別れや後悔など、さまざまな思いを抱えた登場人物たちが、人とかかわりや「食」を通して少しずつ前を向いていく物語です。「おいしいと泣くところから再生が始まる」という帯の言葉の通り、食べることが生きる力につながる様子が丁寧に描かれており、登場する料理もどれも魅力的で、心まで温かくなります。

「ナースのチカラ」は、訪問看護師を主人公に、在宅で生活する利用者とその家族、そして看護師の関わりを描いた漫画です。生活背景や家族関係、本人の価値観を踏まえながら関わる訪問看護の難しさが、具体的な場面を通して描かれています。作者が看護師経験のある方で、実際に訪問看護の現場に取材にも行かれているため、悩みなが

らも利用者に向き合い続ける姿など病院外での看護、コロナ下での看護の様子がリアルに描かれており、実習や将来の看護を考える学生にとってイメージを広げるきっかけになるとと思います。

人とかかわり方に正解はなく、それでも向き合い続けることの意味を考えるきっかけとして、ぜひ手に取ってみてほしいなと思います。



『カフネ』

阿部 暁子

講談社

913.6||A12

全11巻



『ナースのチカラ

～私たちにできること 訪問看護物語～』

広田 奈都美

秋田書店

492.993||H74||1~11

©広田奈都美(秋田書店)

続編の『ナースのチカラ plus』
既刊1～6巻も所蔵しています。



動物は何を話しているか？

理学療法学科 講師

橋本 淳一
HASHIMOTO JUNICHI



皆さんは動物が何を話しているのか気になったことはないだろうか。趣味の山歩きをしていると野鳥の鳴き声に耳を奪われることがある。一斉に賑やかに鳴き始めたり、急に静かになったりと不思議に思うことが少なくない。

「僕には鳥の言葉がわかる」の著者の鈴木俊貴先生は、シジュウカラは単語を組み合わせて文を作っていると解明した研究者である。学生時代から研究者としての活動、実験の苦勞などをユーモラスなエピソードを交えて記してあり、堅苦しきでない文章が魅力である。

そこには人間を含めた生き物への興味と敬意が感じられ、言葉を使うのは人間だけだと思い込んでいる人間は「井の中の蛙」であるとし、研究者としての視点を示している。鳥を相手に実験するにあたっての苦勞も興味深く、実験デザインを組み立てる思考過程や論文発表のあれこれも丁寧に描かれている。

研究成果を生かして絶体絶命の雛鳥を救出するくだりは、こんなドラマチックな後日談があるとは!と驚く。

研究を語る鈴木先生の話は学生の皆さんにとって身近な話題でもあり、学びのヒントになるかもしれない。少なくともシジュウカラの鳴き声に詳しくなるには間違いない。私は春になって山で鳥の鳴き声を聴くのが楽しみになっている。

本書は大変話題になっているので、まだの方にはお勧めしたい。きっと学生生活に役立つと思う。



『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木 俊貴

小学館

488.99||Su96

依存症者の“傷”を知る

社会福祉学科 准教授

小山 宰

OYAMA TSUKASA



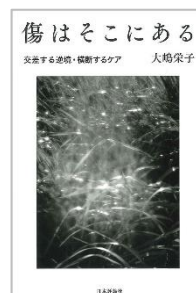
現役ソーシャルワーカーである大嶋栄子氏が書かれた『傷はそこにある 交差する逆境・横断するケア』を紹介します。

本書は、女性のアルコール・薬物依存症者らとの関わりを通して得られた著者の学びや実践の考察をまとめた一冊です。特に、依存症を個人の問題として捉えるのではなく、社会環境や生育歴との関係のなかで捉え、理解する点で読み応えのある本となっています。依存症について、あるいは疾患と社会環境との関連について興味のある学生は、ぜひ手にとって読んでみてください。

大嶋氏は、依存症者の多くが、自己責任や自己努力を強調する社会のなかで、家族や他者を頼ることができずに生きてきた経験を有することを述べています。そのうえで、支援者が依存症者の自己努力や自律を過度に強調して支援にあたることは、ほかに依存元に乏しい依存症者をさらに追い詰めることに繋がり得ることを指摘しています。

依存症者に関わる支援者(特にソーシャルワーカー)にまず求められるのは、依存症者がアルコールや薬物以外に依存元を得ることができなかつたことで負った「傷」を知ることです。この本を読むことで、この「傷」への理解を深めてみてください。

なお、本書は2025年度「日本ソーシャルワーク学会」学術賞を受賞しています。上記のほかに、一人の要支援者を多角的に理解するうえで着目される交差性(インターセクショナリティ)の概念を理解するうえでも示唆に富んだ内容となっています。



『傷はそこにある

交差する逆境・横断するケア』

大嶋 栄子
日本評論社
オンライン図書





おいしさへの追及

一食と科学、そして心

栄養学科 准教授

伊藤 恵美子

ITO EMIKO

私は食事をする時に、「おいしい！」と感じ、時には言葉にも出てしまいます。おいしい料理は、彩り・香り・食材の触覚・食べる時の音・味覚など五感一すなわち脳を大きく刺激します。さらに心理的・生理的・環境的要因も加わり、心も身体も幸せに満たされます。おいしい料理の基準は人それぞれ異なると思いますが、みなさんはどのような料理を思い浮かべるでしょうか。私にとっては、特別なごちそうももちろんおいしいのですが、普段から食べ慣れた、旬の食材が生かされた料理にこそ「おいしさ」を感じます。

今回、ご紹介する本は、「おいしさ」を追求し、「おいしいとは何か」を考える本です。

『料理と科学のおいしい出会い』は、分子レベルでおいしい料理の秘密を探り、よりおいしい料理を追求する「分子調理」について書かれています。料理はサイエンスであり、「おいしさの最適化」が行われています。未来の料理がどのように発達

していくのかを想像し、ワクワク・ドキドキする気持ちを味わいました。

『味以外のおいしさの科学』は、食のおいしさを広義にとらえ、見た目・色・温度・重さ・イメージ、容器・パッケージ、食器、調理器具による感覚変化など、調理環境とおいしさの関係が科学的に解説されています。

『いのちと心のごはん学』における「ごはん学」とは、私たちが毎日食べるごはんとその周辺について学ぶことです。いわば大人のための食育であり、食を通して「日本人とは何なのか」、「日本人としての生き方とは何なのか」そして、食べることの意味を考えさせられます。

おいしさは、実に多くの要因から影響を受けています。おいしいと感じる感性を磨き、おいしさの科学を理解することは、食に対する豊かさや深さをより一層追求することにつながるのではないのでしょうか。



『料理と科学の
おいしい出会い』
分子調理が
食の常識を変える』
石川 伸一
化学同人
498.53||OI76



『味以外の
おいしさの科学』
見た目・色・温度・重さ・
イメージ、容器・パッ
ッケージ、食器、調理器
具による感覚変化』
山野 善正 監修
エヌ・ティー・エス
498.51||A27



『いのちと心の
ごはん学』
小泉 武夫
NHK 出版
498.5||Ko38

*書影は当館所蔵の単行本のもの。
現在は文庫版のみ刊行されています。



誰かの“生”を支援するとは—
支援者という名の「他者」として、
私たちはどうかかわるのか

健康科学総合教育部門 講師

松崎 良美

MATSUZAKI YOSHIMI

保健・福祉の分野で学ぶみなさんにとって、「支援する」とはどういうことなのかを立ち止まって考える機会は、決して多くありません。今回、ご紹介したいと考えている本は、支援—被支援の構造を切り崩そうとするものばかりかもしれません。

『こんな夜更けにバナナかよ 筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』（渡辺一史 2013）は、進行性筋ジストロフィーという難病を抱えながら自立生活を貫く男性、鹿野靖明さんの生きざまを描いたノンフィクション作品です。大泉洋さんが主演で映画化もされていましたが、ぜひ原作を手にとっていただきたい。1970年代に端を発する自立生活運動は、医療や福祉に庇護される「障害者」からの脱却を目指す運動そのものでした。ときに、「あなたのため」と思って取り組むことが、安易にパターンリスティックな関わりに陥って

しまう。本作の中では、支援—被支援の関係性が生活の中で簡単に転倒していく様が痛快に描かれています。

「愛」や「思いやり」を盾に、“暴力的”にすすめられる歪な支援—被支援の関係は、障害者支援に限ったものではありません。発展途上国に対する支援の現場でも長らく議論されてきました。『いのち・開発・NGO：子どもの健康が地球社会を変える』（デイヴィッド・ワーナー&デイヴィッド・サンダース 1998）では、発展途上国で暮らす人々が、先進諸国から提供されるパッケージ化された医薬品などに依存していつてしまう実際の事例を取り上げて、支援—被支援をめぐる構造的な問題に警鐘を鳴らしています。本当に必要なことは、課題や問題に直面している本人が、自分の力で対処していくことができるようにエンパワメントしていくことです。どうしたら、依存ではな



『こんな夜更けにバナナかよ
筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』
渡辺 一史
文春文庫
文藝春秋
369.27||W46



『いのち・開発・NGO
子どもの健康が地域社会を変える』
デイヴィッド・ワーナー/デイヴィッド・サンダース
池住 義憲/若井 晋 監訳
新評論
369.9||W59

* 出版社サイトに掲載されている書影を使用しています。



『被抑圧者の教育学』
50周年記念版
パウロ・フレイレ
三砂 ちづる 訳
垂紀書房
オンライン図書



『「思い出」をつなぐネットワーク
日本社会情報学会・災害情報支援
チームの挑戦』
柴田 邦臣ほか 編
昭和堂
369.31||Sh18

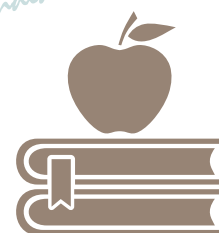
く自立を生み出していくことができるのか。国際保健分野で働く人たちにとってバイブル的に読み継がれてきているのが『被抑圧者のための教育学』（パウロ・フレイレ 2018）です。社会的構造によって不利な状況に立たされている人たちは、日々を生きることに精一杯になりがちで、構造的な問題に目を向けることが困難です。ですが、対症的な支援は依存を生み出すばかり、支援者に対する従属ももたらしかねません。いかに本人たちが構造的な問題を把握し向き合い、その課題に対処していくための知恵を絞りだせるのか—周囲の人間がどうかかわっていき得るのかを論じようとしたのがこの本です。

誰かの生（健康のみならず生活、生きることそのもの）を「支援する」とはどういうことなのか。その問題に向き合い、克服しようとしている人は誰なのか。『「思い出」をつなぐネットワーク：日

本社会情報学会・災害情報支援チームの挑戦』（柴田邦臣ら 2014）では、東日本大震災の被災地支援の過程で、支援者としてのかかわりがどうあるべきであったかを、相当禁欲的に振り返り、自省的に議論されていて、圧倒されるかと思います。

専門職として、さまざまな知識や技術を備え、誰かの支えになろうとしている皆さんにこそ、読んで考え、議論してもらいたいと思える本たちです。ぜひ手に取ってみてください。

Recommended Books



なぜこの文章は読みやすいのか？

一文章力向上のススメ

経営企画室 主幹

宮崎 宏得

MIYAZAKI KOTOKU



皆さんに質問です。次の①②、どちらの文章が読みやすいと感じますか。

① 私は小林が中村が鈴木が死んだ現場にいたと証言したのかと思った。

② 鈴木が死んだ現場に中村がいたと小林が証言したのかと私は思った。

おそらく、全員が②を選ばれるのではないのでしょうか。文法的にはどちらも正しいのに、言葉の順序が異なるだけで読みやすさが大きく変わります。では、もう一つ質問です。「なぜ②が読みやすいのか」を論理的に説明できますか。回答に困る方がいらっしゃるかもしれません。感覚的には分かっている、その理由を言語化するのには意外と難しいものです。

今回ご紹介する本は、「読む人にとって分かりやすい文章」を論理的に解き明かした名著です。40年以上前に出版されましたが、その内容は今なお色褪せず、現代でも大変役立ちます(あの林修先生も絶賛しています)。

学生の皆さんは、レポートやプレゼンテーション、卒論発表など、文章を書く機会が多いことでしょう。社会人になってからも同様です。文章力は一生使えるスキルです。この本の内容を実践すれば、確実に文章力が向上するはずです。ぜひ早いうちにお読みになることをおすすめいたします。

最後に、もう1つ例を挙げます。

① 豊かな潤いを萌える若葉に初夏の雨が与えた。

② 初夏の雨が萌える若葉に豊かな潤いを与えた。

こちら、②の方が読みやすいと感じる方が多いのではないのでしょうか。では、なぜ②が読みやすいのか、その答えは本書にあります。ぜひ手に取ってご自身で確かめてみてください。



『日本語の作文技術』新版
本多 勝一
朝日文庫
朝日新聞出版
816||H84

学生の図書館活用方法



私の図書館の活用法～視野を広げる～

看護学科 4年

高橋 博名

TAKAHASHI HIRONA

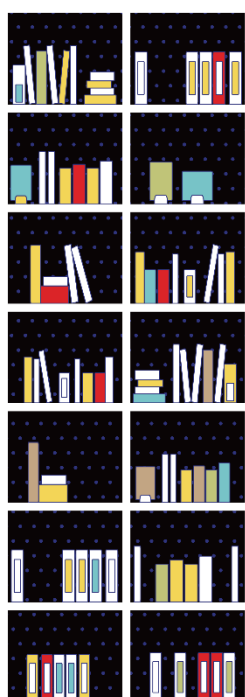
皆さんはどんな時に図書館を活用しますか？勉強のためであったり、気分転換のために本を借りたりと図書館は様々な活用の仕方がありますよね。私の場合は視野を広げるために図書館を活用することが多いです。

勿論定期試験や実習期間も利用します。試験期間は一度も外に出ることなく勉強を続けられるので、集中力を保ちやすいです。また、グループワークルームで友人と話しながらホワイトボードを使用して学びを深められるのは、一人で勉強するのとは異なる気づきがあって楽しいです。実習期間中は各領域の対象疾患の患者さんへの観察のポイントやケアの工夫などの情報が分かりやすく纏められている専門書が役立ちます。インターネット上では真偽の定かでない情報もあるため、信頼できる実践的な知識に基づいてケアを考える際に図書館の文献は強い味方です。

私はボランティア活動を円滑に行うために利用することもあります。ボランティアでは知的障害のある方や認知症の方、時に外国の方と接することが

あります。しかし、こうした方への接し方は、授業内で十分に学びきれないと感じています。なぜなら、授業やロールプレイで経験することに限界があるからです。そのため、接し方で躓いた時や不思議に感じた時に私は図書館へ行きます。先人たちの経験や研究を基に、対象者が一般的に日本でどのような生活を送り、どのような文化的背景を持つのかを調べ、一般的に望ましいとされる接し方を学んでいます。その知識を土台に、ボランティアにて個別性に合わせた接し方を意識しています。それと同時に、自分の未熟な点や課題にも気づくことができます。例えば海外の方と接した経験を通して英語力の必要性を感じ、TOEICの勉強を始めました。実はその参考書も保健大の図書館にあります。

皆さんは学業の傍らアルバイトや友人関係など忙しい毎日を送っていると思います。そんな生活の中で行き詰ったときには図書館に来てみませんか。きっと自分が向かう道へのヒントが見つかるはずです。

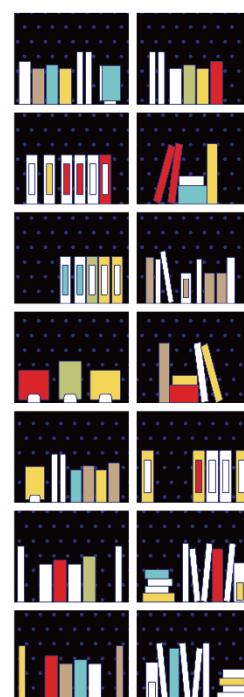


考え続けるための居場所 — 今日もまた図書館へ

理学療法学科 4年

高橋 瑚陽

TAKAHASHI KOHARU



皆さんは図書館にどのようなイメージを持っているでしょうか。本、静か、ゆっくりできる場所。さらに、本学の図書館には保健・医療・福祉分野の専門書が多く、「勉強をする場所」というイメージを持つ人も少なくないと思います。私自身も、専門書がずらりと並ぶ本棚の前に立つと、少し身構えてしまうことがありました。しかし利用してみると、図書館は「考えたいときに立ち寄れる場所」なのだと感じるようになりました。

私がよく利用するのはグループワークルームです。テスト前は友人と朝6時から集まり、問題を出し合ったり授業資料を音読したりして、ひたすら知識を詰め込みます。同じ目標に向かう仲間と緊張感を共有する時間は、大学生活の中でも印象に残る瞬間です。さらに、評価実習では症例レポートをまとめるためにこの場所を使いました。大きな机いっぱいに参考書を広げ、意見を出し合いながら内容を整理する過程で、図書館が学びを支えてくれていることを実感しました。

また、1人で図書館を訪れる時間も大切にしてい

ます。無性に本を読みたくなる瞬間、皆さんもありますか。私の場合は、自分でも何に悩んでいるのか分からない漠然とした気持ちを抱えたときです。AIなどで情報を検索すればすぐに答えにたどり着けますが、気持ちを言語化できないと何を調べればよいか分からず、画面の前で手が止まることがあります。しかし、図書館の本棚は少し違います。目的がなくても背表紙を眺めて歩くだけで、思いがけず心に響く言葉やテーマに出会えるのです。その偶然の出会いが、思考を整理し、世界を少しクリアにしてくれます。

図書館は、答えを探すだけの場所ではなく、考え続けるための場所なのかもしれません。友人と緊張感を共有しながら学ぶ時間も、1人で本棚を眺めながら思いがけない出会いを楽しむ時間も、どちらも自分の思考を深める大切な瞬間です。すぐに正解へたどり着ける時代だからこそ、あえて立ち止まり、自分自身と向き合う時間には特別な意味があります。今日もまた、少し考えたくなったとき、私は自然に図書館に足を運ぶのだと思います。



変わらない当たり前、変わる当たり前 —RemoteXs 導入を通じて

健康科学研究科 博士後期課程
R7年度修了生

吉田 優弥
YOSHIDA YUYA

図書館は、どこか「いつも静かで変わらない場所」と感じさせられます。それは単に人の声が少ないことだけでなく、棚を探す、本を借りる、返す、調べるといった営みが同じ形で繰り返されてきた場所という意味もあります。しかし、図書館は脈々と進化を続け、使い方次第で学びの幅を大きく広げてくれる場所なのです。

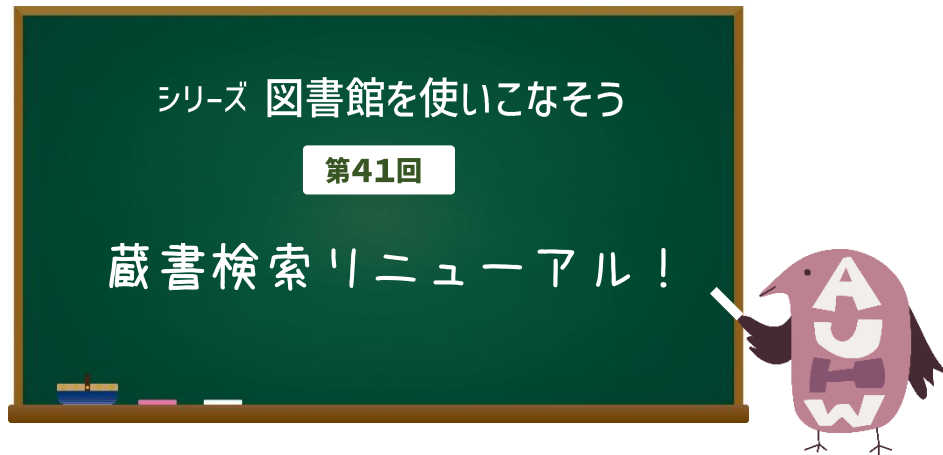
そこで、時を少し戻します。—私は2017年4月から2年ほど本学栄養学科の実験・実習助手として勤務していました。併せて、博士前期課程に在籍し、日々勉学に励んでいました。当時調べものといえば、専ら図書館でした。冬の寒さと夏の暑さが極端なC棟の渡り廊下で、季節のリズムを全身で味わいながら図書館へ。図書館のシンとした雰囲気が、どこまでも勉強ができる感覚を引き起こし、多くの参考文献をピックアップさせてくれました。電子ジャーナルも、図書館でアクセスすることが多かったです。成果物を共同研究室へ持ち帰り、淹れたコーヒーとともに同室の先生方とディスカッションというおしゃべりをしたのが思い出です。

その後、本学を退職、博士前期課程を修了し、コロナ禍を経て、2023年4月に博士後期課程へ入学

しました。コロナ禍によって社会全体のDX化がより加速しました。たった数年で、大学院の授業を受けるスタイルもリモート化が進んでいました。20時50分まで教室以外真っ暗な大学で対面授業を受けていたことを思い返すと、只々変化の様に驚きました。

そんな中、2023年10月に「RemoteXs」が導入されました。研究も本格化する中で、どうも自宅での文献検索だと、かつて図書館からアクセスできた電子ジャーナルが豊富であったことを知っているだけに、物足りなさがありました。そこで、「RemoteXs」に接続すると、当時は限られた場所ではできなかった作業が自宅で行える便利さに衝撃を受けたのを覚えています。一方で、こんな楽をしてよいものかと感じることもあります。ですが、日々いろいろと忙しい中で、本来あるべき移動時間が文献抄読に割けるので、大変有意義です。

ただ、実際に足を運んで実体を感じるのも、私は好きだなとも思っています。結局、図書館は「いつも静かで変わらない場所」であるのだと感じさせられます。



本学附属図書館の蔵書を調べることができる[蔵書検索](#)が、令和7年9月にリニューアルしました。新機能と併せてご紹介します。

- 蔵書検索(画面リニューアル)
- 「いいねボタン」と読書メーターへのリンク(新機能)
- 利用者ページ(画面リニューアル)
貸出期間の延長 | 図書購入リクエスト | 文献複写依頼 など

トップページ/簡易検索



条件を設定して絞り込みたいときは、「詳細検索」のタブをクリックして、切り替えて検索してください。

「新着から検索」をクリックすると、直近1か月の間に、蔵書として仲間入りした図書が一覧で表示されます。

新着図書 of 検索結果一覧

The screenshot shows the search results page for the library. At the top, there are navigation tabs: トップページ, 簡易検索, 詳細検索, 雑誌検索, 利用者ページ, and 開館カレンダー. Below these, the search results are displayed for the period SD5=2026/02/24~2026/03/26, showing 9,926 / 145,830 items. A search filter dropdown is set to '全ての項目'. The first result is a book titled '医療・福祉・在宅の症例に学ぶ栄養管理マニュアル / 紅谷加津江, 西宮弘之, 高田健人編集'. The book details include 'いいね 0', '紅谷, 加津江 | 2025.4', '出版情報: ナップ', '分類: NDC9 498.55', and 'ISBN: 9784905168850'. At the bottom of the result, there is a call number '図書館 1階 新着図書コーナー', a barcode '498.55||B35', a 'New!' tag, and the accession number '001786516'.

詳細検索

The screenshot shows the detailed search page. It has tabs for 簡易検索, 詳細検索, and 雑誌検索. The '同義語検索' (Synonym search) is set to OFF. There are four search criteria: '全ての項目', '全文検索', 'タイトル', and '著者名'. Each criterion has a dropdown menu and a search input field. To the right of each input field are radio buttons for 'AND', 'OR', and 'NOT'. Below the search criteria, there are three buttons: '検索' (Search), '新着から検索' (Search from new arrivals), and 'クリア' (Clear). At the bottom, there is a '検索対象' (Search target) dropdown and a '検索対象' (Search target) section with checkboxes for 'すべて' (All), 'AND', and 'OR'. There are also checkboxes for 'すべて(蔵書あり) オンライン (図書)', '図書', '雑誌', '視聴覚', '和', '洋', 'オンライン (雑誌)', and 'オンライン (視聴覚)'.

項目(例: タイトル)や

検索対象(例: オンライン(図書))等の条件を設定することができます。

検索結果一覧

例) 簡易検索画面で「ヘルスリテラシー」と入力して検索

検索結果一覧

青森県立保健大学 NDL SEARCH Cinii Research Google ブックス

OAL=ヘルスリテラシー 32 / 145,830件 結果集合番号 [4]

全ての項目

絞り込み検索

全選択 エクスポート

表示順 出版年降順 表示件数 10

著者名

- 江口, 泰正 (3)
- 福田, 洋 (3)
- 中山, 健夫(1961-) (2)
- 中山, 和弘 (2)
- 大北, 全俊 (2)

1. デジタル×ヘルスリテラシー: AI・SNS時代の"新"健康情報力 = Digital×health literacy / 福田洋, 江口泰正編著

いいね 0

福田, 洋 | 2025.12

出版情報: 大修館書店

分類: NDC9 498.07

ISBN: 978446928024

図書館 1階 新着図書コーナー MAP 498.07|F74 001786136

書名をクリックすると詳細画面が表示されます。

1. デジタル×ヘルスリテラシー: AI・SNS時代の"新"健康情報力 = Digital×health literacy / 福田洋, 江口泰正編著

前の資料へ 1 / 32 次の資料へ

デジタル×ヘルスリテラシー: AI・SNS時代の"新"健康情報力 = Digital×health literacy / 福田洋, 江口泰正編著

いいね 0 読書メーター レビューを見る

蔵書情報

記架場所	請求記号	資料状況	資料番号ほか
図書館 1階 新着図書コーナー MAP 閉架帯出版	498.07 F74		001786136 1F新着図書コーナーにあります。貸出できます。

書誌詳細情報

登録番号: ED00188169 (B00188169)

形態: X, 157p.; 挿図; 26cm

注記: 表現種別: テキスト (ncrcontent), 機器種別: 機器不用 (ncrmedia), キャリア種別: 電子 (ncrcarrier), 参考文献: 巻末

ISBN: 9784469280241

書誌レコードID: BD14092421

別署名・異称名の種類: VT: デジタルヘルスリテラシー: AISNS時代の新健康情報力

分類: 498.07, 498.07, SC171

件名: BSH 健康教育/JK, BSH 情報と社会/JK, NDLSH 健康教育/JK, NDLSH 情報化社会/JK

価格・入手条件・製本・版型: 2400円+税

あらすじ・目次・著者紹介 ■ 目次

あらすじ: デジタル技術を利用して健康を維持・促進するための力。情報通信技術 (ICT) の急速な発展に伴い、健康・医療分野にもデジタル化の波が押し寄せている。ウェアラブルデバイスやスマートフォンのアプリを用いた健康管理、SNSを通じた健康情報のやりとり、健康史や医師の現場への生成AIの導入など、これらの技術を効果的に活用するためには、単なる情報アクセス能力にとどまらない、より広範な意味での「ヘルスリテラシー」が必要となる。「デジタルデバイス」による健康格差を生まないために、AI・SNS時代に求められる健康情報の新たな活用能力について考える。

第1章 デジタル時代におけるヘルスリテラシー 国際学会の動向
第2章 デジタル技術を活用したヘルスケアの今
第3章 デジタル時代におけるヘルスコミュニケーション
第4章 デジタル時代におけるヘルスリテラシーの発展

蔵書検索の新機能「いいねボタン」と読書メーターへのリンク

詳細画面では、この本への「いいね」の数を確認することができます。
また、読書メーターへのリンクが張られていて、レビューを見ることもできます。

検索結果詳細

1. デジタル×ヘルスリテラシー : AI・SNS時代の"新"健康情報力 = Digital×health literacy / 福田洋, 江口泰正編著

いいね 0 | 読書メーター | レビューを見る

「いいね」ボタンを押せるのは、本学学生・院生・教職員と利用者登録している一般の方に限られます。
お薦めの本があったら、ぜひ、利用者ページにログインして、本を検索し、「いいね」ボタンをクリックしてください。

ログイン認証

ログインIDとパスワードを入力し、ログインボタンを押してください。

ログインID
パスワード
ログイン

自分のIDとパスワードを入力して、「ログイン」をクリック

例) 書名「デジタル×ヘルスリテラシー」で検索

トップページ 簡易検索 詳細検索 雑誌検索 利用者ページ 開館カレンダー

利用者ページ [My本棚を見る](#)

ようこそ さん <前回ログイン: >

検索キーワード

1. [前の資料へ](#) 1 / 1 [次の資料へ](#)

デジタル×ヘルスリテラシー : AI・SNS時代の"新"健康情報力 = Digital×health literacy / 福田洋, 江口泰正編著

問題および責任表示
デジタル×ヘルスリテラシー : AI・SNS時代の"新"健康情報力 = Digital×health literacy / 福田洋, 江口泰正編著

巻冊次等
ISBN: 9784469280241 PRICE: 2400円+税

同じタイトルを探す

著者名 福田洋 <典拠ID検索>, 江口泰正 <典拠ID検索>	出版者名 大修館書店
出版地 東京	出版年月 2025.12

1回クリックすると「いいね」としてカウントされ、
2回クリックすると「いいね」がキャンセルされます。

利用者ページ (My Library)

利用者ページ [My本棚を見る](#)

ようこそ さん <前回ログイン: >

検索キーワード

メニュー

- 貸出・予約状況
- 貸出履歴
- 希望資料申請
- メールアドレス変更
- パスワード変更

利用者へのお知らせ 図書館からのお知らせです。ご確認ください。
現在、お知らせはありません。

図書館利用状況

貸出・予約状況
・貸出: 1件

利用者ページでできること

- 借りている資料とその返却期限日、予約した資料の確認
- 借りている資料の貸出期間延長
- 図書購入リクエスト
- 文献複写依頼(他館から複写を取り寄せ)
- 現物貸借依頼(他館の蔵書を借りる)
- 大学のメールアドレス以外のメールアドレスの追加設定
- 利用者ログインページへアクセスする際のパスワード変更

貸出期間延長、図書購入リクエスト等のマニュアルは[図書館ホームページ](#)に掲載しています。

スマホからアクセスしたときの
画面も見やすくなりました!
ぜひリニューアルした蔵書検索を
使ってみてくださいね!



TOPICS

豪雪の冬 2026

2026年2月、青森市内は災害級の豪雪にみまわれ、窓から見える景色も、近年にないものになりました。積雪が低書架の高さを超え、中庭のオブジェが雪に埋もれました。



図書館1階から見える景色。
昨シーズンも豪雪と言われましたが、それでもここまでは積もりませんでした。

積雪のラインがここまできました！



雪解けが進んだ3月末に撮影したオブジェ。本来、このような姿です。

道路事情は日に日に悪化し、公共の交通機関にも大きな影響が。そのため、雪および道路状況が落ち着いてから返却できるように、返却期限日を延長する特別対応をしました。雪国青森とはいえ、今シーズンの雪の多さは特別でした。

図書館広報キャラクター トリゾウ

2011年3月、社会福祉学科 成田悠介さん・福土悠輔さん・牧野祥諒さんのアイデアをもとに誕生。

図書館の広報活動で活躍しています。



青森県立保健大学附属図書館だより ラポール 第41号

令和8年4月発行

発行者 青森県立保健大学附属図書館

〒030-8505 青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1

☎ 017-765-2011

URL <https://www.auhw.ac.jp/library/index.html>